

授業科目 精神科リハビリテーション学

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	作業・社会
藤野邦夫		開講時期	後期	必修・選択	選択
		単位数	4	時間数	60
【概要】 精神科リハビリテーション学は、精神保健学と精神保健福祉論と並び作業療法士及び精神保健福祉士の国家試験を受験する場合に大切な科目である。精神障害者のリハビリテーションは、障害者のノーマライゼーションの理念が生かされなければならない、個別援助のみでなくわが国の制度や社会資源の活用に至る幅広い視点が必要となる。精神障害者のおかれた現状を理解し、地域社会での生活のしづらさを改善するために社会福祉施設の効果的な利用方法を学ぶ。書籍や文献の講読も必要だが事例を紹介しながら学習するのが理解しやすいので取り入れる。国家試験は、実践能力が問われるので演習や実習も大切に、自信をもって受験できるよう学習してもらいたい。					
【学習目標】 1 精神科リハビリテーションの概念と基本原則が理解できる。 2 我が国の精神科入院患者の在院日数の長期化と高齢化現象及びその課題を理解することができる。 3 精神障害者のリハビリテーションを進める上で基本となる「病」と「障害」を併せ持った対象者の存在を理解できる。 4 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割がわかる。 5 精神科リハビリテーションに必要な社会復帰施設の種類と機能を理解できる。 6 精神科リハビリテーションと精神保健福祉法との関係がわかる。 7 精神科リハビリテーションのプロセスと技術の基礎がわかる。 8 精神科リハビリテーションを進めるために必要な情報検索の方法を知ることができる。					
回数	授業計画又は学習の主題			SB0	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション 精神保健福祉士と精神科リハビリテーション学				講義
2	わが国の精神医療の歴史と精神科リハビリテーションの概念				講義
3	精神科リハビリテーションの理念と基本原則				講義
4	なぜ、精神障害者にとってリハビリテーションが大切なのか				講義
5	わが国の精神障害者施策の歴史と精神保健福祉行政				講義
6	わが国の精神障害者施策の背景と問題点を考える				講義
7	グループ討議と課題学習（レポート）				講義と演習
8	課題学習（グループ毎の発表）				講義と演習
9	精神障害者のための予算と全国の社会復帰施設の実態				講義
10	新潟県の精神障害者関連統計資料から精神保健福祉士の立場を考える				講義
11	病院における精神保健福祉士の活動と責任				講義
12	地域精神保健活動と精神保健福祉士の役割				講義
13	グループ討議と疑問点の整理				講義
14	作業療法士及び精神保健福祉士の国家試験問題の傾向				講義
15	後期の授業の進め方 資料集めと文献検索の方法				講義
16	重大な犯罪を犯した精神障害者処遇と我が国の法改正の動き				講義
17	犯罪を犯した精神障害者への関わりと精神保健福祉士				講義
18	精神障害を持ちながら生活している人の話を聞く 3人ほど				講義
19	精神障害者のための社会復帰施設 生活の場としての支援寮と福祉ホーム				講義
20	精神障害者のための社会復帰施設 働く場としての通所授産施設と共同作業所				講義
21	精神障害者のための就労支援 どのような機関があるか				講義
22	事例から精神保健福祉士と作業療法士の役割を考える				講義
23	グループ討議と課題学習				講義と演習
24	グループ討議の結果発表				講義と演習
25	精神保健福祉関連情報の整理と学会や雑誌から見た話題から				講義
26	精神科リハビリと精神科救急システムについて考える				講義
27	精神科リハビリテーションにおける連携と統合				講義
28	まとめと実習に向けての準備から				講義
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書		精神科リハビリテーション学	徳永純三郎他	へるす出版	2001年 3,570円
参考書		精神科リハビリテーション・地域精神医療	井上新平他	中山書店	1999年 31,290円
		精神障害リハビリテーション学	蜂矢英彦他	金剛出版	2000年 3,800円
その他の資料		改訂精神保健福祉法詳解	精神保健福祉研究会	中央法規	2000年 6,000円
		我が国の精神保健福祉	精神保健福祉研究会	太陽美術	2001年 2,191円
【評価方法】			【履修上の留意点】		
1 期末に試験を行う 配点は試験80点、レポート10点、出席等10点により総合評価する。					
2 期末試験及び総合評価で60点以下の場合には不合格となる。ただし、希望により再試験を行うことがあるがこの場合の最高点は60点となる。					